はじめに

学校長　菊川恵三

今年，2011 年（平成 23 年）は東日本大震災の年として，長く日本の歴史に残る年になるでしょう。それは単に巨大災害という一時的なものではなく，いまだに収束していない原発と放射能の問題，復興にからんだ財源や今後の国のありかたの問題として，長く影響を与えるからです。それがどのようなものになるか，だれも予想しきれません。私たちには，やがてくる何かを，固唾を呑んで待つしかないようです。

そんななかで静かに語られるのは「絆（きずな）」です。被災した方々の助け合い，被災した方々とそうでない人々との連帯。この一年，そのようなニュースや記事がなかった日はないでしょう。どうやら，私たちはこういう「絆」や連帯なしには生きていけないようです。

さて，私たちがやっている公開研究授業，そしてこの紀要の刊行は何のためでしょう。これもまた，同じ小学校教育に携わる方々と「絆」をもとめてのものであると思えてなりません。忙しい毎日の中で，うっかりすると十分な教材研究なしで授業に臨み，なんとか 1 日をこなす。そんな惰性に流されがちな日常にストップをかけ，子どもの状況を考え教材を吟味し，指導計画を頭に研究授業を準備する。実に骨の折れる仕事です。

同僚に公開し，学外に公開するとなると，さらに気苦労が増しますが，しかし，いつもとは違う子どもの笑顔や参観者の表情に手ごたえを感じ，自分の成長を実感するのはこの時でしょう。

論文として発表するとなると，研究授業を「振り返り，まとめる」というだけではすみません。あの場面でなぜあの子どもの反応があったのか。あとの協議会で出た質問はなんだったのか。結局，自分の授業は何がよくて，何が足りなかったのか。それを言葉にし，論理の枠に落とし込んでいく。思考とか，省察というものの姿がそこにあります。これもまた，一層骨の折れる仕事です。

研究授業に比べると，こちらの方の反応は鈍く，すぐに読んでくれ喜んでくれるのは極めてまれです。しかし，ある時，思いもかけない人から思いもかけない言葉をいただけることがあります。そういえば，私たちが論をまとめる際，他人の論や報告を読み直したとき，なるほどと教えられました。同じように，私たちが書いたものが誰かの役に立てばと願っています。

今年のテーマは「学びの質の高まりをめざして～自己の変容へとつながる『「吟味』～」でした。十分にこなれていないものもあるでしょうが，ご覧いただき，御意見をお寄せいただければ幸いです。

今後も，皆さん方との新たな「絆」を求めて努力していく所存です。よろしくお願いいたします。

2012 年 3 月